

になっていました。「年の内に春は来にけり」という古今集巻頭の在原元方の歌があるとおり、年内に立春が来るのはごく普通のことでした。明治初年、太陽暦の採用にとめない、太陽暦の年替わりが加わって、年越しの意識がさらに複雑になりました。近年では年越しは太陽暦の年越しで、立春の前日の節分は節分行事という別のもものと思う人が多いかもしれません。しかし本来は年末の大祓も立春前の節分も年越しに当って邪気を祓う同じ意味を持ったものでした。



鬼の相貌をしています。これは方相氏は邪悪な鬼を退治するため奇怪で恐怖の容貌を持ったものとされ、本来鬼というのは邪悪なものを鬼と呼んだもので形のないものであったため、退治する役目の方相氏の形が逆に鬼のように考えられるようになったといわれています。近江神宮には四つではなく六つの目の方相氏の面があり、二つづつの目で現在過去未来を見通すとされています。

鶏の縁起と太鼓鶏

十二支の酉は時刻では日没のころを指しますが、動物に当てはめた鶏は鶏鳴によって暁を知らせる夜明けの動物とされています。一番鶏は丑の刻（午前二時ころ）、二番鶏は寅の刻（午前四時ころ）といえます。

日本の神話では、天照大神が天の岩戸に隠れて世界が暗闇となり、夜ばかりが続いたとき、常世の長鳴鳥に鳴かせて朝を呼び起こそうとしたことが伝えられています。神々や精霊の時間である夜と人の



はそのような神聖な時告げ鳥でした。

上に鶏が乗った太鼓を太鼓鶏といい、天下泰平の縁起物とされています。朝明けを呼ぶ鶏鳴と十二支を表わした太鼓鶏の土鈴を、時の祖神にちなんだ近江神宮の縁起物として授与しています。

活動する時間である昼間との境目を知らせる霊鳥とされ、鶏鳴によって無理やりに朝を訪れさせ、魔物を追い払うことができると考えられていたわけです。また木綿付鳥（ゆふつけどり）といい、都の四方で御幣を付けた鶏を供えて、疫病や悪鬼が入り込まないように祭りに行ったといわれています。鶏

年末年始の祭典等

- 十二月十三日午前九時 門松立て
- 十二月二十日午前九時 煤払祭
- 十二月二十三日午前十時 天長節祭
- 十二月三十一日午後三時 年越大祓式（続いて）除夜祭
- 一月一日午前〇時 歳旦祭（さいたんさい）
- 一月一日午前七時二分 初日の出遥拝式
- 一月二日午前八時三十分 日供始祭（につくはじめさい）
- 一月三日午前八時三十分 元始祭（げんしさい）
- 一月七日午前九時 昭和天皇祭遙拝式
- 一月七日午前十時 かるた名人位クイーン位決定戦
- 一月八日午前九時 かるた祭・高松宮記念杯全国競技かるた大会
- 一月十日午前八時三十分 天智天皇祭（天智天皇のご命日）
- 一月十五日午前十時 古神札焼納祭
- 二月三日午前十時 節分祭
- 二月十一日午前十時 紀元節祭